



神戸フィルハーモニック

第73回 定期演奏会

チャイコフスキー:ピアノ協奏曲第1番 変ロ短調 作品23
Tchaikovsky : Piano Concerto No.1 in B-flat minor Op.23

ドヴォルザーク:序曲「謝肉祭」 作品92
Dvořák : "Carnival" Overture Op.92

ドヴォルザーク:交響曲第7番 ニ短調 作品70
Dvořák : Symphony No.7 in D minor Op.70

実りの季節へ。

と き

Kobe Philharmonic



〈ピアノ〉
加々見 茉耶
Maya Kagami



〈指揮〉
朝比奈 千足
Chitaru Asahina

2016 **11.6** (日) 神戸文化ホール・大ホール
2:00pm開演(1:30pm開場)

神戸市営地下鉄/「大倉山駅」下車すぐ、バス/「大倉山停留所」下車すぐ
阪急・阪神・山陽/「高速神戸駅」より徒歩約8分、JR/「神戸駅」より徒歩約10分

入場料:全席自由(消費税込) *就学前のお子様はご遠慮下さい。

[一般 2,500円前売](当日3,000円) [大学生以下 1,000円前売](当日1,000円)

【入場券発売】

神戸文化ホールプレイガイド (078-351-3349)

神戸コンサート協会 (078-805-6351)(FAX予約078-805-6352)

e+(イープラス) <http://eplus.jp>

①電話またはFAX予約によるチケット郵送サービス可。

②FAX予約は演奏会名・チケット種別・枚数と名前・住所・電話番号を明記の上、お申し込みください。



●お問い合わせ (公財)神戸市民文化振興財団 (078-351-3597) <http://www.kobe-bunka.jp/>
神戸フィルハーモニック公式HP <http://www.kobephilharmonic.jp/>
神戸フィルハーモニック後援会事務局(080-1519-1183)

■主催/神戸フィルハーモニック・神戸フィルハーモニック後援会・神戸市・(公財)神戸市民文化振興財団

あらたな挑戦

この秋、私たちは36年間の蓄積を基に、未知の音楽への挑戦！を試みます。

神戸フィルハーモニック創立以来、まだ一度も定期演奏会で取り上げたことない曲がまだまだたくさん残っています。ドヴォルザークといえはすぐあの「新世界」、あるいは8番の交響曲を思い出しますが、今回取り上げる7番目の交響曲もこれら2曲に劣らず名曲です。ドヴォルザークがロンドンで大成功を収めて、国際的な名声を得て、自信満々の作曲意欲旺盛な時の作品なのです。いわゆる「チェコ風」から抜け出して、インターナショナルな作風になった最初の作品だともいえるでしょう。神戸フィルが初めて挑む新しいレパートリーです。

ドヴォルザークはやっぱり管弦楽の作曲が得意でした。交響曲のほかに序曲とか交響詩のような作品も数多く残っています。序曲といっても、オペラの幕があがる前に演奏されるような短いものでなく、それだけで独立した作品が多く、今回取り上げる「謝肉祭」も、この他に2曲の序曲と組みあわせて書かれた大曲の中の一曲なのです。こんな曲を神戸フィルがまだ取り上げたことがないという事は一つの驚きです。

もう一つの驚きは、チャイコフスキーのピアノ協奏曲という名曲を初めて取り上げることです。この曲の最初の部分はよくテレビのコマーシャルで使われていて、どなたにも耳馴れた音楽だと思います。しかし何といてもチャイコフスキーの真骨頂は第2楽章で聴かれるあの美しいメロディーです。またピアノの独奏部分は超絶技巧を要することで有名です。兵庫県出身の新進ピアニストを迎えての共演がとても楽しみです。

朝比奈 千足(神戸フィルハーモニック 音楽監督)

加々見 葉耶(ピアノ)

Maya Kagami



1991年兵庫県生まれ。5歳よりピアノを始める。兵庫県立西宮高等学校音楽科を卒業。2009年、オーストリア・ウィーンにて行われたVIP(ウィーン・インターナショナル・ピアニスト)に参加。選抜コンサートに出演。第1回 ロザリオ・マルチアーノ国際ピアノコンクール(オーストリア・ウィーン)第2位。併せてシューベルト賞を受賞。第23回ペトロフピアノコンクール第1位。2010年、兵庫・大阪にてデビューリサイタルを開催。2011年、霧島国際音楽祭に参加。選抜コンサートに出演。同年、東京国際芸術協会主催の海外音楽大学派遣オーディションに合格し、全額免除でロシア・モスクワ音楽院のセミナーを受講。2014年、イタリアのイモラ音楽院のサマーアカデミーに参加。レオニード・マルガリウス教授のマスタークラスに参加。ディプロマ取得。第2回イモラ国際ピアノアワード本選会にて奨学金を得る。これまでに寺村久美子、高原典子、中村伸吾、片山優陽、シュテファン・メラ、エレナ・リヒテル、ダン・タイ・ソン、有森博、川上昌裕の各氏に師事。合奏を渡邊健二、青柳晋両氏に、ピアノデュオを角野裕氏に師事。東京藝術大学器楽科ピアノ専攻卒業。昨年度よりイタリアに渡り、イモラ音楽院に在籍。レオニード・マルガリウス氏に師事。2016年、第23回ジュリオ・ロスプリオージピアノコンクールにて第1位(assoluto)受賞。優勝の褒賞として、イタリア国内で12個のリサイタルツアー、ルーマニアのバカウオーケストラとの共演が予定されている。これまでに、兵庫県立西宮高等学校オーケストラ(長谷場 純一 指揮)、姫路交響楽団(黒田 洋 指揮)、Orchestra dell'Concentus Musicus Patavinus(マウロ・ロベリ 指揮)、メキシコ州立交響楽団(エンリケ・バティス 指揮)と共演。Casa Menotti 音楽フェスティバル(ヴェネツィア)、San Giacomo 音楽フェスティバル(ポローニャ)招聘アーティスト。リサイタルを行う。

神戸フィルハーモニック

Kobe Philharmonic

神戸市民のオーケストラとして1979年に発足した神戸フィルハーモニックは、幅広い年齢層のファンの方々に支えられて活動を続けています。デビューコンサートをその翌年1月に開催し、以降、年2回の定期演奏会やニューイヤーコンサートを行ってきました。他にも、後援会主催のコンサートや諸団体からの依頼演奏を行うなど、多彩な演奏活動を展開しています。このように、市民の皆様身近に、気楽に楽しんでいただけるよう、低廉で良質なクラシック音楽の魅力や楽しさを提供し続けてきた活動が評価され、1997年に神戸市文化活動功労賞を受賞しました。また、音楽を通じて青少年の育成やクラシック音楽の普及にも力を注ぎ、バレエや日本舞踊とのコラボレーション、少年少女合唱団や中学校の吹奏楽部との共演など、新たな試みにも積極的にチャレンジしています。そして、音楽活動を通じて国際交流も行っており、1991年にはオーストラリアからクィーンズランド・フィルを迎えて合同演奏会を行い、2010年には神戸市の姉妹都市であるオーストラリアのブリスベンにて、小編成での訪問演奏を行いました。2011年、東日本大震災が日本を襲いましたが、阪神淡路大震災を経験した私たちであるからこそ、復興への思いを寄せ、チャリティーコンサートと南三陸町歌津地区へ訪問し、演奏会や被災された方々との交流を行っています。我々は、これからも、より多くの方々にクラシック音楽に親しんでいただけるよう、日々、演奏活動に励む所存です。